



優秀賞

広島県 株式会社 伯和
「社会人野球チーム『伯和ビクトリーズ』の運営」
事業



株式会社 伯和
代表取締役 会長
安本養伯さん

全国で唯一の業界企業の社会人野球

社会貢献にはさまざまなものがあるが、その手段としてパチンコホールを経営する会社が、社会人野球チームを運営するといった前代未聞だろう。広島県にはそんな取り組みをしている企業がある。株式会社 伯和である。同社は東広島市に拠点を置き、27のパチンコホールを経営するほか、不動産業・ホテル事業などを経営し、従業員数は1,000人を越える総合レジャー企業グループである。平成17年、その事業の中に伯和ビクトリーズの運営が加わった。

元々このチームは、平成5年に東洋観光グループの西日本リネンサプライが運営する企業野球のチームで、創立12年目には都市対抗野球初出場を果たすほどの実力のあるチームだったが、平成17年に廃部が決まった。

きっかけは地元で野球チームを招聘しようという、東広島市の商工会議所会頭からの依頼だった。

「もちろん最初は即座にお断りしましたよ」と伯和グループを率いる代表取締役 会長の安本養伯さんは苦笑いする。野球チームの経営ノウハウなどまったくなく、相当な負担になることが目に見えていた。実は同社には前例があった。異業種の経営に夢を抱き、ノウハウのないままホテル経営に踏み切り苦難の苦い思いをしていた。

「本業を外さず、パチンコだけにしておけば楽だったがなあ」と笑う。豪放磊落。ちょっと気の短そうな昔気質のオヤジと、いつまでも夢を追いかける少年が同居したような人物だ。「興味を持ってしまうと、後先は考えないで突き進んでしまうんだ」

結局は手をあげることになった。地域の振興促進につながり、社会貢献活動にも活用できると判断したからだ。「私も60歳過ぎた頃から人生観が変わってきた。これまで働かせていただいた地域社会や、お世話になった方々に少しでも還元しなくてはいけないということで引き受けることにしたんです」

こうして、伯和ビクトリーズは誕生したが、その年の「社会人野球日本選手権」では中国地区で出場権を得て、1年目で全国大会にデビューするという偉業を成し遂げた。平成20年度は「全国都市対抗野球」と「社会人野球

チームが、暴力団追放や子どもの育成に力を注ぐ。



毎日新聞で紹介された記事



全国大会に参加するほどの実力になった



「ビクトリーズ子ども祭り」のチラシ
数々のイベントがもりだくさん



「ビクトリー子ども祭り」の会場



選手と子どもたちの交流も盛んだ

日本選手権」へも出場している。最近では、広島東洋カープの2軍との練習試合を通じ勝負の厳しさなど色々と学んでいるようだ。

現在所属選手は28人。昼間はグループのホール等で働き、午後は練習に精を出す。安本さんは選手をつかまえて「おまえ4年もやっているんだから、はよプロにいかんかい」とはっぱをかけている。そんなときに自分自身の楽しさと、選手や地域に夢を与えていることを実感するという。

もちろん、チームは社会貢献活動にも参加する。「暴力団追放・排除・進出阻止・街頭パレード」では、暴力団追放を市民に呼びかけた。また「ビクトリーズ子ども祭り」では、子どもたちに野球の個別レッスンを行うほか、地域の少年野球の育成にも力を入れている。

同社はもともと社会貢献活動には積極的だ。「減らそう犯罪」活動支援として、広島県遊技業協同組合を通じて

(社)広島県防犯連合会への寄付・支援を欠かしたことはない。また、高齢者のリハビリの一環として「リハビリパチンコ」活動を平成10年から支援もしている。さらには、同市西条町の賀茂広域行政組合に救急車などを寄贈した。患者監視装置、ストレッチャー、酸素呼吸器などが装備された最新の救急車だ。伯和ビクトリーズの存在によって、マスコミなどの注目度が上がり、監視されているような厳しさも増えたが、社会貢献活動が取り上げられて、その活動や対象となる人たちの存在が知られるようになったことは大きいと同社は考えている。

「どこかよそさんのホールも社会人野球チームを持ってほしいね」と安本さん。伯和ビクトリーズ VS. ○○○チームが、全国大会で激突すれば、遊技業界がさまざまな活動を行っていることをアピールできる。同社の夢はどこまでも広がっている。